美術科学習指導案

日時　平成２６年１１月１８日(火)
クラス　２年３組　生徒数３３名
指導者　五月女　正明(横川中教諭)

１　題材名
身近なモノがカタル物語

２　生徒の実態
本校は、美術の授業に積極的に参加する生徒が多い。昨今は、動画やアニメーション表現が多様にあり、生徒たちも日頃目にしている。そこで、デジタルカメラを活用した授業を実践したいと考えた。
このクラスには、美術への関心の高い生徒が多く、これまでの授業では、お互い意見を交換する場面も多く見られた。今回の授業では、撮影のための班による話し合いや意見の交換も求められる。さらに、お互いのよさを認め合えるような活動にさせたい。

３　題材観
本題材は、学習指導要領美術編第２・３学年のＡ表現（２）ア及び（３）ア・イの内容に基づいて設定した。伝えたいテーマやメッセージをどのように伝えるかを班で話し合いながら明確にし、プロジェクトとして動画を作り上げるための創造的な表現技能を身につけられるようにしたい。
今回の授業では、デジタルカメラを使ったストップモーション・アニメーションの手段を用いて、他者と共同で行う創造活動により作品を制作する。デジタルカメラの再生機能のみを用いて、撮影した写真を連続再生する。音声や効果音などは使わずに、シンプルに表現することでも思いを伝える手段として可能性があると考えた。班でストーリーやカメラワークなどを考える創造活動を通して、充実感や達成感を得られるようにさせたい。

４　指導観
２年生としての発達の段階においての集団の一員としての関わり方を自覚し、共同制作における役割分担を意識しながら協力して良いものを制作していけるようにする。また、色や形、動きを用いた美術ならではの言語活動を行うことによって、思いを共感し合ったり、伝え合ったりする力を高めさせたい。
身近なモノを用いてストーリーの構想を班で練り、シナリオや絵コンテ、カメラワークの効果などを考えて計画的に表現できるようにする。
制作後にそれぞれの班の作品を鑑賞し合うことで思いを共感し、自分たちのメッセージがどのように伝わったかを感じ取り、動画ならではの表現のおもしろさに興味をもたせたい。

５　題材の目標
【表現】　身の回りのモノを用いたストップモーション・アニメーションの制作に、関心をもって取り組み、日用品の観察から主題を選択し、主題にふさわしい構想を練りながら物語の展開や場面の構図を工夫するとともに、自分たちで表したい動きや展開にするために、カメラワークやモノの配置、動かし方など工夫しながら制作することができる。
【鑑賞】　ストップモーション・アニメーションの可能性やおもしろさに気付き表現の工夫やよさに共感し、味わうことができる。

6　題材の評価規準

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
身の回りのモノを用いたストップモーション･アニメーションの制作に、関心をもって取り組もうとする。	日用品の観察から主題を選択し、主題にふさわしい構想を練り、物語の展開や、場面の構図を工夫し、表現することができる。	自分たちで表したい動きや展開にするために、カメラワークやモノの配置、動かし方など工夫しながら制作することができる。	ストップモーション･アニメーションの可能性やおもしろさに気付き、表現の工夫やよさに共感し味わうことができる。

	時間	学習活動	評価の観点				指導上の留意点等
			関	発	技	鑑	
第1次 主題の選択	1	1　学習の内容を理解し、日用品の観察から主題を選択する。	★				・個別に、ワークシートを用いて、日用品から自分なりに感情を感じ取ったことを基に、主題を選択させる。 【評価方法】ワークシート、活動の様子
第2次 構想を練る	1	2　班を組み、班としての主題を決定し、役割分担をする。お互いの考えをすりあわせながら、あらすじを決定する。 3　あらすじを基に、絵コンテを制作する。		★			・お互いの意見を発表させ、その中で、班として表現してみたい主題について考えさせる。 ・役割分担は、全体の構想や今後の展開を基に、見通しをもって決めさせる。 ・主題を基にあらすじを考え、絵コンテを制作して次回につなげる。 【評価方法】ワークシート、活動の様子
第3次 制作	2	4　絵コンテを基に、主題に合わせて、美的感覚を働かせながら構図や構成を工夫して撮影する。			★		◎主題に合った表現方法を工夫させ、試行錯誤しながら、さらに構想を練り上げ、見通しをもって表現させる。 ・役割分担を理解し、協力し合って撮影させる。 【評価方法】作品、ワークシート、活動の様子
第4次 鑑賞（本時）	1	5　お互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図についても発表し合う。				★	・それぞれの班の表現の意図を感じ取りながら鑑賞させ、制作者の思いについての発表を聞き、自分なりの価値意識をもって批評し合うようにさせる。 【評価方法】ワークシート、付箋紙、活動の様子

7　本時の指導

（１）　題材名　伝えよう・感じよう（作品発表・鑑賞）

（２）　本時の目標

・作品の主題や表現方法に気付き、制作者の思いに共感しながら自分の価値意識をもって味わうことができる。　（鑑賞の能力）

（３）　準　備　　教師：テレビ、デジタルカメラ、付箋紙
生徒：動画作品データ、制作シート

（４）　展　開　　○人権教育上の配慮

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
１．本時の学習内容を確認する。 制作した動画作品を発表し、制作者の意図やストップモーション・アニメーションの工夫を感じ取ろう。	・各班で制作した動画作品を発表し、作品に込めた思いを伝えると共に、お互いに評価をし合うことを理解させる。
２．作品を発表し、制作や構想の思いを伝え合う。 ・各班で制作した作品のテーマや思いを感じながら鑑賞する。 ・構想や制作の過程など、制作への思いを制作シートを使って発表する。	・班の作品をテレビで発表し、どのような思いで制作したのか、感じ取りながら鑑賞させる。 ・発表者は、作品の主題やモチーフの選び方など、構想について伝えられるようにさせる。 ○お互いに作品のよさを認め合えるような雰囲気を作る。
３．鑑賞して感じたことを記入する。 ・一番よかったと感じた作品への感想や評価を付箋紙に記入し、黒板の用紙に貼る。	・全ての班の作品を鑑賞し終わったら、自分なりに印象に残った作品について感想や評価をまとめ、付箋紙に記入させる。特に、物語の展開やカメラワーク、モノの動かし方などについての具体的な記入を心がけさせる。
評価規準(鑑賞の能力) 【おおむね満足できる状況】 ・作品の主題やストップモーション・アニメーションの工夫やよさに気付き、制作者の思いを感じ取りながら、味わっている。 【十分満足できる状況】 ・作品の主題やストップモーション・アニメーションの工夫やよさに共感し、構想の過程などから制作者の思いを明確に読み取り、自分なりの思いや感じ方をもって味わい、批評し合っている。 【おおむね満足できる状況に達していない生徒への支援】 ・作品の撮影の仕方やモチーフの扱い方など、各班が思いを伝えようと工夫しているシーンに着目させ、意図や表現のよさなどに気付かせる。	
４．まとめ ・自分達の作品への感想から、制作の思いがどのように伝わったか班で話し合い、活動をふり返る。	・感想や評価を読み、自分達の構想や表現の思いがどのように伝わったか、話し合ったことをまとめさせる。

身近なモノがカタル物語

２年　　組　　番　名前

1　身近なモノと主題をつなげてみよう

主題 モノ	夢	友情	信頼	思いやり		

2　あらすじを考えよう

モ　ノ	あらすじ

自己評価：本時の活動を振り返り、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄで記入してみよう

○　課題に対して意欲的に取り組むことができたか　　（　　）

○　日用品を観察し、想像力を働かせて主題を選択することができたか　（　　）

身近なモノがカタル物語 制作シート

年　　組（　）班　作品タイトル：

作品の主題		
あらすじ		
みどころ		
役割分担	監　督	シナリオ
	絵コンテ	撮　影
	アシスタント	

絵コンテ

シーン	場　面	内　容	時間

チームワークを確認しよう

日付	各班で活躍した人をふり返ろう
／（　）	・シナリオを工夫した人 （　　）（　　）（　　） ・積極的にアイデアを出した人 （　　）（　　）（　　） ・ていねいに絵コンテを記入した人 （　　）（　　）（　　） ・班の活動の様子
／（　）	・積極的に動画撮影を行った人 （　　）（　　）（　　） ・モノの動かし方を工夫した人 （　　）（　　）（　　） ・班の活動の様子
／（　）	・積極的に動画撮影を行った人 （　　）（　　）（　　） ・モノの動かし方を工夫した人 （　　）（　　）（　　） ・班の活動の様子